



リステラス星圈史略
古資料ファイル 2－4
(二皇分裂時代)



(発掘整理一旦完了)

霧樹里守 & 土岐真扉

《 大 地 世 界 》
物 語

(二 皇 分 裂)

(メモ) (中学の学校の進学・受験関係のプリントの裏面使用☆)

『 (メモ) 』 (中学の学校の進学・受験関係のプリントの裏面使用☆)
2006年7月3日 連載 (2周目・大地世界物語)

◎ 東西皇朝分裂時代

> 二皇子によって平定。

○ 北方二皇朝時代【 白 (マルライン) ・西 (モルナス) 両皇朝】

いちおう西方開拓の為の皇権の委譲という形で、西皇の後継者に対して代々の白皇が西皇職を任命するという形をとる。

両皇朝の仲を円滑にする目的で、西の皇位継承者 (2～3位くらいのもので) は、12～25歳まで (地球感覚で8～15歳) の学業期を白都に「留学」して暮らす習わしである。

西方の人間は、火の山から遠い分、比較的短命で成長速度も速い。

☆ 大地世界地図 (たぶん、一番古い＝最初に描いた＝もの) ☆

海

マドリアウィ王朝

レリナルディアイム

月立の国……レリアン・ダレム

果て山の西斜面、月読峠の月女神殿

レリアン……月立、月出、

エルフェリ、エルフェリヌ

サユライ……山ゆり（エリフェリ＋ロク）

マシカのエルフェリネィア

フェルラダル……銀の楡

ルア・マルライン……第4皇期

ソル……太陽

ラーヤ……スピカ

○ マルラインにおける紙の使用は公文書、及び記録・保存用にのみ用いられ、計算、メモ等は薬をかけてよくみがきこんだ木簡に墨で記入。用済みになるとまとめて洗い流した。

紙は主として和紙で、浅南海北西地帯の特産物である。

西方では羊皮紙が、南方では竹簡・パピルス、東部森林地帯では《伝承の葉》、北方及び山間部ではその他の獣皮が常用される。

男皇（おのおう） 女皇（めのきみ）

男皇（おのきみ） 女皇（めのおう）

『皇白都 ルア・マルライン について。』 (@高校授業中?)

2006年7月5日 [連載 \(2周目・大地世界物語\)](#)

東西分裂期後、東（正統＝ミア・スメル＝）皇朝によって建てられた新興の皇都（ルアーイン）である。《美（うるわ）しの白き都》として知られ、《平和》また《無欲》を象徴する知神（セトライム）ヨーリャの色、白色（マリル）を基調とした、簡素な洗練された街市の景観を特徴としている。

《美しの》を意味する接頭美辞が古代魔術語（＝マリカルロク＝源言語）の《マノル》ではなく、仙族語（エルフェリロク）系の単語《ルワ》が用いられていることから解る通り、従来の、遷都を重ねるにつれて人族同士のみで寄り固まってしまった皇朝達とは異り、大分、上代の本来あるべき大地人（ダレムアト）の姿に近い社会形態と意識・文化とを持つ。神々や精霊族に対する自然な崇敬や畏れへの、回帰願望を持つ皇朝なのである。ある意味で文明復興期（るねっさんす）と言える。

街道を整備・再編して《白き皇の道（ミア・マリルテオダ）》を定め、次第に分散しつつある国同士の交流をはかり、大地の民としての失なわれつつある家族意識を掘りおこそうとつとめた。広域簡での商業活動を奨励し、ティクタース領邦国人の便宜をはかり、定期的隊商や飛脚制度をおこした。また、各宮廷が必ず1人2人のホットライン的伝令の役割をつとめる翼人族や飛仙を住まわせる慣例が一般的になったのも、この皇朝に入ってからであった。

白都（マルライン）そのものは随分小規模で質素な京（みやこ）である。大地の背骨山脈から派生した丘陵地帯の末端がぽつんとひとつ平原部に飛び地したような形の、名も無い双丘を中心として築かれ、土台及び沿道施設には白石と白沙が、建材には白木が主として使われている。白亜大理石や金銀装飾はほとんど見かけられない。

2部に大別され、丘をとりまく平野部に広がる町並では商業と手工業が主な産業である。沿海・ティクト・北方諸国と西方や森林国家群との接点として常設市や加工業種が賑わい、文化交流につれて当然歌舞音曲、芸術の類にたずさわる人種も多い。各国の王太子たちが若さにまかせて遊学しに来てはハメをはずす。芸術系の学問と商いと外交……はっきり言ってここはコミュニケーションの都市なのである。人々は皆開放的で明るい。太っ腹で、物に動じず、非常に視野が広い。喧嘩っ早くはあるが戦士では決してなかった。

白都の庶民達および周囲に広がる皇家直轄領を統べるのは、代々の皇の従兄弟である聖白都公の役割である。 →

炎色（マトル）＞オレンジ系赤色。／紅。黄金、（銀）、黄。

聖色（マリル）＞白。／青、水色、炎銀色、（銀）、紫、光。

森色（メアル）＞緑。／茶、黒、灰、etc.。

☆養蚕と絹について資料集めること。

美 マノル＞豊穡。女性美の豊かさ。（大地的母性の発現として）。

ルワ ＞崇高。気高さ。女性美（しばしば無性）の気品。

（精神的理知の発現として）。

[大地世界物語 ～人代編～ （地誌と年代記） Ⅱ](#)

2006年4月9日 [連載](#) [コメント \(1\)](#)

【年代記】Ⅱ

[大分裂]

大地世界の最多の生命である地人族は、おおむね《銀波清流》の流れに沿って長い年月をかけ移住と拡散を繰り返した。拡散につれ集落相互の連絡も途絶えがちとなり、多くの場合、《本家》と呼ばれる《神統主》の他に、各集落の統治を司る《分統主》や、河筋や街道筋を束ねる《神統補》が選ばれた。やがて各地の様々な《神統》家を支持する者同士で派閥が分かれ、争いが多発し、魔族の残党もまたこれに便乗して跳梁跋扈し、各地方は孤立して、安全な往来が途絶える時代となった。

[再統治]

《神統》家系のはしくれとは言え産まれながらに《血の薄い娘》と蔑称で呼ばれる無力な少女と、その地人族の従兄弟と、偶然知り合った智水学派の青年とが、往来の絶えた大地のありようを憂えて長い長い旅に出た。大地をあまねく経巡り、各地の主たちを説得し、ついには大地の自由な往来を取り戻す。埋もれし古道は整備されて《白の街道》と名付けられ、初の貨幣と貢納（税）制度が定められて、界全体の交易が始まった。

[双統家]

《血の薄い娘》は成人し《女神の遠い孫》の美称を得て大地世界全体を束ねる《白王家》の開祖となり、交易の要衝たる大いなる《銀波清流》の《瀬分けの丘》の一带の森を開いて《白の都》と定めた。

しかしここで自らの聖統を唱える《最も濃い家系》からの横やりが入った。《血の薄い娘》が大地再統一の功績をもって《神統主》の位に就くのは構わぬが、その後継づくりを考慮すれば、統主の伴侶は《最も濃い家系》の者が務めるべきだというのである。

女皇はこれを拒否して、従兄弟である地人族をみずからの夫とし、幾人かの後継者を産んだ。これにより、以後の諸皇の寿命はほとんど一般の地人と変わらぬまでに短いものとなった。

聖性を誇る《最も濃い家系》は彼らを《ただびと》と蔑み、これに臣従するを不服とし、自ら《聖帝家》を名乗り離反した。初代女皇の必死の懇請により戦は回避されたが、彼らは袂を分かち、《帝家》とその眷属は、再び移住と拡散の徒についた。

《白の皇都》の西方には、いにしえの暗洞界軍の魔厄によって永遠に緑の育たぬ《うつほの岩漠》が広がる。後代、それを西南に迂回して更に進んだ厳しい環境の中に、聖なる真力の強い

者のみが入都を許される、《西の帝都》が築かれるに至った。

《東の白》と《西の聖》。

疎遠ながらも自由と和平を保つ双都の時代が終わりを告げるのは、はるか後の代に、《皇女戦記編》において語られる物語である。

大地世界あおら。 **2014年7月8日**

[大地世界あおら。](#)

2014年7月8日 [リステラス星圏史略](#) (創作) [コメント \(1\)](#)



ここはダレムアスそのものだ。

ルア・マルライン。 2014年7月8日

[ルア・マルライン。](#)

2014年7月8日 [リステラス星圏史略](#) (創作)



《麗しの白の皇の都》

『大地世界物語』。めも。 2015年1月7日

[『大地世界物語』。めも。](#)

2015年1月7日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(2\)](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=PpJJclkhLbo>

Tibet - Best Tibetan Performances Ever (2014 Tibetan New Year)

おっと！（@@；）！

この5分目から出てくる「背中に旗しよった」衣装は、

うちの大地世界（ダレムアス）と共通だ...

男性衣装の、袖も！！！！

コメント



[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2015年1月7日20:39

10分目からのやつ、札幌ソーランで踊れそう♪

[霧木里守≡畑楽希有（はたら句きあり）](#)

2015年1月7日21:14

あらあら！（@@）！

20分頃からのやつ！

コサックダンスとアイリッシュダンスと、並べて鑑賞しないとだわ...！

（馬族つながり？？）

リステラス星圏史略 古資料ファイル 2－4
(二皇分裂)

<http://p.booklog.jp/book/103200>

著者：霧樹里守 & 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/103200>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/103200>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ